

新基地建設反対名護共同センターニュース

市民の民意は新基地容認ではない 岸本ようへい氏 現職候補相手に大健闘！



写真上は、前列右から岸本氏、聖子夫人、デニー知事、山里将雄選対本部長、赤嶺氏。写真左は、デニー知事（左）と握手を交わす岸本氏。

23日行われた名護市長選の結果、「オール沖縄」の岸本洋平氏は大健闘しましたが及びませんでした。岸本氏は「私の力不足だった。多くの市民に支えていただいた。ありがとうございます。新基地についての市民の思いは『反対』だったと感じる。その他の政策が届かなかった」と語りました。出口調査では新基地建設「反対」が6割を超えました。一方、当選した自公推薦の渡具知武豊氏は、前回市長選と同様、最大の争点となった新基地建設の賛否を明言せず争点そらしに終始しました。

岸本氏の選挙事務所には玉城デニー知事、赤嶺政賢衆院議員、稲嶺進元名護市長らが駆け付け岸本氏を激励しました。玉城デニー知事は、新基地反対の民意に「何か懸念があるわけではない。相手候補に投票した人にも反対の人はいる」と述べ、県の姿勢は揺るがないとの立場を示しました。

琉球新報は社説(24日)で、事前の世論調査をもとに辺野古新基地について市民は「反対」「どちらかと言えば反対」の合計が62.1%に上り、「容認」「どちらかと言えば容認」の合計33.2%を大きく上回っており、選挙結果は「民意は基地容認ではない」と主張しました。

名護市長選へご支援ありがとうございました

「ちるだい。だけど私たちは現場で頑張る」

市長選から一夜明けたキャンプ・シュワブゲート前の24日。この日でゲート前の抗議は2759日目です。

コロナ禍で「オール沖縄会議」としての活動は休止していますが、県民10数人がゲート前で座り込み抗議の意思を示しました(写真)。その中の1人、名護市の女性は「市長選は残念！と言うよりちるだい(沖縄方言で、ぐったりする、がっかりする)。でも私たちはここで頑張るしかないですから」と話し、持ち前の美声でたたかひの歌をリードしていました。

読谷村のYさんは23日に名護市内で棄権防止活動を午後7時まで奮闘し、翌朝はゲート前にきていました。Yさんは「コロナが終わったら、名護市民を含めてゲート前のたたかひをもっと強めたい」と話していました。県民は機動隊との接触を避け、自ら移動しました。



名護民商「残念だが、たたかひの通過点。これからも頑張ろう！」



「沖縄を返せ」を合唱し、明日からの奮闘を誓い合う名護民商の役員・事務局員ら。(右から2人目が仲本会長)

前回は会員1割増で大奮闘
名護民商は23日、役員事務局員が民商事務所で市長選の開票を見守りました。結果が出た後、感想を出し合いました。「雰囲気良かったので勝てると思ったが残念の一言だ」、「電話で約1000人と対話した。こんな経験は初めて」、「民商としては4年前と比べて会員を1割増やし、支持拡大を1.5倍増やすなど大いに頑張った」などお互いの奮闘をねぎらいました。

全国からの支援に感謝

仲本興真会長は「全国からたくさんの方の支援に感謝しています。残念な結果だったが、沖縄の闘いはこれまでも山あり谷ありだった。今回の結果も新基地建設中止をめざすたたかひの通過点です。たたかひは続きます。峠の向こうに春があります。敗戦から学んで、教訓を引き出し、明日からの確定申告はじめ要求運動と会員拡大でさらに頑張ろう」と発言しました。最後に、みんなでスクラムを組み「沖縄を返せ」を合唱し、午後11時に散会しました。